言葉がつなぐ私の世界

徳野　千夏



「ハロー。メイ・アイ・ヘルプ・ユー？」

小学校六年生のとき、昭和記念公園で、私はある外国人の人に声をかけました。その人はスマートフォンの画面を見つめたまま、困ったようにあたりを見回していて、道に迷っているのは明らかでした。いつもなら緊張して通り過ぎてしまうところです。でも私は幼稚園の頃から英語を習っていました。だから「今までの経験を試してみよう」と思い、頭の中で習ったフレーズを必死に組み立てて、勇気を出して話しかけたのです。

私のつたない英語を聞いたその人は、パッと表情を明るくして、

「サンキュー！」

と素敵な笑顔を見せてくれました。目的地までの道を一生懸命に教え終えたとき、私の胸には、これまでにない温かい気持ちと達成感が広がっていました。

それまでの私にとって、英語はどこか「習い事の一つ」に過ぎませんでした。中学校に入ってからは、テストのために暗記するだけの教科になりかけていたのも事実です。しかし、あの日の出来事が私の意識をガラリと変えてくれました。

英語は、覚えるだけのものではありません。目の前にいる困っている人と心を通わせ、その人の役に立つための生きた言葉だと、身をもって知ったのです。

この経験をきっかけに、私は「伝えること」そのものに強い興味を持つようになりました。そんなある日、私はあるアニメ作品で、登場人物たちが手や豊かな表情を使って会話をする姿に出会いました。それが私と「手話」との出会いです。

画面の中の手話は、静かで、優しく、とても美しく、私の心に強く残りました。声を出さなくても、全身を使えばこんなにも深く豊かな感情を届けられる。強い衝撃を受けた私は、すぐに手話の勉強を始めました。

そこで気づいたのは、手話も日本語や英語と同じ、独自のルールを持つ立派な言語だということです。私たちは普段、耳で聞き、口で話すことだけが言葉だと思いがちです。しかし、言葉とは本来、耳や口という体の一部だけを使うものではなく、相手に自分の思いを届けたい、相手の気持ちを深く理解したいという、人間の強い願いそのもののはずです。そうであるならば、耳が聞こえるか聞こえないかという体の違いは、お互いの存在を分かつ心の壁には決してならないはずです。

そして、ここで私が強く伝えたいのは、世界にある言葉は、日本語、英語、手話の三つだけではないということです。

地球上には、約七千もの言語が存在し、それぞれの国や地域で独自の音や文字、豊かな表現が大切に育まれてきました。もしも、世界に一つの言語しかなかったら、私たちは自分とは違う文化や、新しいものの見方に出会うあの瑞々しいワクワク感を知ることはできなかったでしょう。世界中のすべての言葉に、言葉の数だけ、そこに生きる人々の魅力が詰まっているのです。

昭和記念公園で出会ったあの人のあたたかい笑顔。そして、アニメをきっかけに知った手話の奥深さ。これらはすべて、私の小さな世界を大きく外へと広げてくれる大切なパスポートと

なりました。

世界には、私がまだ触れたことのない言語やその背景にある文化が数え切れないほどあふれています。私はこれからも多様な言葉を学びながら、その向こう側にある広い世界を知っていきたいです。言葉の違いを壁として恐れるのではなく、自ら進んでその先へ手を伸ばし、世界中のあらゆる人々と心でつながれる人になりたいと思います。